

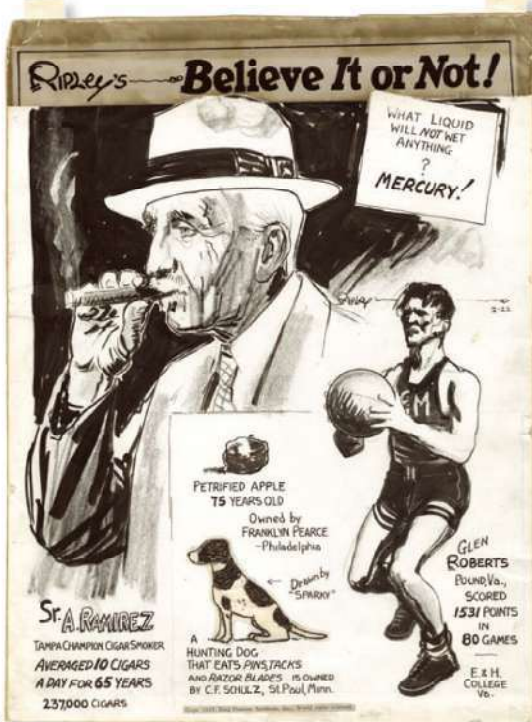
14 | 『リプリーの信じよう 信じまいと!』

チャールズ・シュルツはわずか14歳で新聞業界に参入した。

シュルツ家で飼っていたスパイクという名の犬は、カミソリの刃や鋏など、信じがたいものまで食べていた。当時すでに新聞の配信記事『リプリーの信じようと思じまいと!』では10年以上にわたって、毎日数件ずつ、ありえない出来事や驚くべき事実についてを世間に紹介していた。ユーモラスかつ情報量が多く、新聞におけるアートのおアシスであり、このクールな犬のことを世に伝えるのにうってつけの場所だった。一家は『リプリー』に投稿し、手紙にはスパキーが描いたスパイクの絵が添えられた。

1937年2月22日の月曜日、シュルツの絵は全米の新聞を飾った。

(図の真ん中、下部)
← “スパキー” 作画
ピン、鋏、カミソリの刃を
食べる狩猟犬。飼い主は
C・F・シュルツ
(ミネソタ州セントポール)。



大谷芳照「スヌービーの進化、大ホール壁画、3.5トン、チャールズ・M・シュルツ美術館蔵。



シュルツさんが初めて世に出した絵は、スヌービーに似た外見の犬でした。白い体に黒いぶち、黒い耳と鼻、尻尾の付け根も黒が混ざっています。のちにシュルツさんは『ピーナッツ』の原型となった『ちびっこたち』でもこの子犬を描いています。1997年、シュルツさんとシュルツ夫人のジーニーさんから、シュルツ美術館の常設展示用として2作品の制作を依頼されました。シュルツさんと何度も話し合い、「スヌービーの進化」を表現する作品をつくることにしました。シュルツさんは14歳のときに描いた絵をぼくに見せながら、「これがスヌービーの原型で、進化の第一歩なんだ」と教えてくれました。1937年から『ピーナッツ』が完結する2000年までの63年間、シュルツさんはスヌービーを描きつづけ、生涯を通じて進化させたのです。この犬の絵は、シュルツ美術館を飾る木製作品「スヌービーの進化」では、進化の始まりとして位置づけられています。

——大谷芳照

描いた絵を投稿するよう勧めてくれたのは、近所に住む親友のシャーマー・ブレブラーでした。それから10年以上が過ぎ、スパキーは『ピーナッツ』で最初にセリフを口にする人物に、この親友の名前をつけました。犬のスパイクは、スヌービーの兄弟のひとりの名前となっただけでなく、初期のスヌービーの外見に決定的な影響を与えました。

①シャーマー! ②もういっぺん呼んでみて…/シャーマー ③すぐ行くよ… ④ありがとう、ルーシー…また頼むよ… (1953年7月8日)



Just Keep Laughing..

By Spinky



"GO AHEAD, AN' JUMP... IT'S JUST A DROP IN THE BUCKET!"



"ARE YOU SURE THAT JUDY UNDERSTOOD THE RULES OF THIS SACK-RACE?"



"I'LL BET THE PIONEER GIRLS NEVER COMPLAINED WHEN THEY ONLY GOT ONE SCOOP OF ICE-CREAM."



"WOULD IT HELP ANY IF I TRIED TO MAKE YOU BELIEVE I'M WORKING MY WAY THROUGH COLLEGE?"

「大学の学費を稼いでるんだ」と言ったら、少しはその気になつてくれました。」「...」

アート・インストラクションの本業とともに、教理教育協会の「トピックス」誌その他の企画による副業もあったので、スパキーは多忙だった。あるとき、この出版社から急な飛びこみ仕事の依頼を受け、それをこなしたことから、感謝のしるしとして、1ページの漫画を掲載してもらえるようになった。1ページ分の連作1コマ漫画『笑いつづけろ』は、1947年2月刊行の「トピックス」第5巻第5号に掲載された。のちのシュルツ漫画のように子どもが中心の作品もあったが、すべてがそうではない。『笑いつづけろ』は2号後にも掲載されたが、これが最後となった。この直後、シュルツはもっとメジャーな媒体で、1コマ漫画の連載を獲得することになる。

「...こちらがフォルサム先生、新任の古代史の先生です」
「新発売の大型専用サイズは住宅難の解消にもってこいだね」（シリアルの空き箱を見ながら）
「ねえ、ジュディ、もうちょっと打車を上げてくれたら、好きになれる気がするんだけど」
「お誕生日おめでとう、ママ。お店の人が言っただけけど、もし気に入らなかつたら、ホッケーのバックと交換してもいいんだって！」

Just Keep Laughing..

By Spinky



"...AND THIS IS MISS FOLSOM, OUR NEW INSTRUCTOR IN ANCIENT HISTORY."



"THE NEW LARGE ECONOMY SIZE HAS CERTAINLY BEEN A HELP TO THE HOUSING SHORTAGE."



"Y'KNOW, JUDY, I THINK I COULD LEARN TO LOVE YOU IF YOUR BATTING AVERAGE WAS JUST A LITTLE HIGHER."



"HAPPY BIRTHDAY, MOM, AND IF YOU DON'T LIKE IT, THE MAN SAID I COULD EXCHANGE IT FOR A HOCKEY PUCK!"



①ぼくの感動の人情マンガ見てみる？ ②小さな子はおばあちゃんと暮らしていたんだ、ね？ ふたりはお腹をすかせて死にそうになると、おばあちゃんが煮豆を持ってくるんだ！ ③小さな子どもは豆なんてどこにあったのだろうと不思議に思う...そのとき気づいたんだ！ ビーンバッグがなくなってる！ ④人情マンガに感動しない人間は人間じゃないな！（1954年4月28日）

50 | 西ミネハハ・パークウェイ・ハウスの壁画

1952年、スパーキーとジョイスはミネソタに戻った。家族が増えて、もっと広い家が必要となったが、同時に『ピーナッツ』が成功してきたため、費用も捻出できた。一家はミネアポリスの牧場の2LDKの家から、取り急ぎ近くの大きな家に引っ越した。1955年4月には、スパーキーとジョイス、そして子どもたちのメレディス、モンティ、クレイダは、さらに広い家に移った。このミネアポリスの3番目の家は、寝室が5つある、4500平方フィートの大きな家で、場所は西ミネハハ・パークウェイ、前のふたつの住所から1マイル以内で、ここが3年間の住まいとなった。

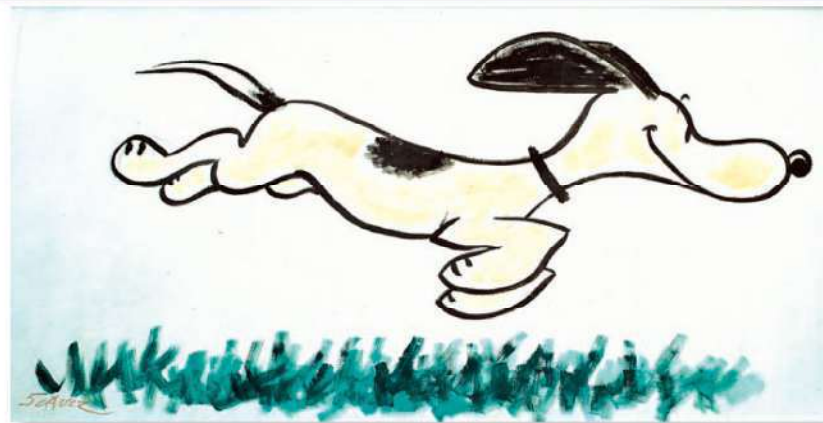


“

わたし自身ミネソタ育ちで、子どものころに住んでいた家から10マイルと離れていないところにシュルツ夫妻の家がありました。13番街4852番の妻の子ども時代の家からは、たったの1マイル！『ピーナッツ』のような偉大な作品が、わが家と同じ中西部の平凡で地味な町から生まれたことを思うと、いつも頭のなかが混乱しました。今では「名声」と「漫画の仕事」が別ものであることくらいはわかっていますが、新聞で『ピーナッツ』を見ると自分が大成功を取めたような気持ちになったものです。

——ビート・ドクター（ピクサー・アニメーション・スタジオのチーフ・クリエイティブ・オフィサー）

シュルツはこの家の室内の壁を漫画の絵で飾りました。ひとつはスヌーピー、もうひとつはチャーリー・ブラウンそっくりですが、カウボーイハットに名前があるとおり、シュルツの長男モンティです。これらの絵は、壁に鉛筆で下書きをしてから、ポスターカラーで仕上げられました。2014年、のちの所有者がこの家を売却することになったとき、シュルツ美術館は壁画を回収する機会を得て、木摺り下地に漆喰を塗った壁全体を慎重に取り外しました。ポスターカラーは画材として長期保存される作品には向いていないため、剥がれやすい塗料を保護するために、細心の注意を払って洗浄のうえ定着させられました。





「ありがとう!」「ほんとにありがとう!」「つまり言いたいのは、ほんとにほんとにありがとう!」「つまりほんとに言いたいのは、ほんとにほんとに…ありがとう!」「ちえっ! どうお礼を言ったらいいのかわからなくわらない!」

58 | ホールマーク社の初期デザイン

グリーティングカードやギフト用品の米国大手メーカー、ホールマーク社は、1960年から『ピーナッツ』の仲間たちを製品フィニッシュに加えた。ここに載せたデザインスケッチにあるとおり、初期製品の多くはシュルツ自身がデザインをしている。『ピーナッツ』キャラクターの豊かな感情表現と高い知名度はこの分野に非常にうまくはまったため、ホールマーク社は『ピーナッツ』を使うライセンスとして契約期間のもっとも長い企業となった。60年以上たつ現在も、ホールマーク社で販売中の『ピーナッツ』製品は、つねに新商品が投入されながら、優に100種類を超えている。



64 『スヌーピーとかぼちゃ大王』セル画

『チャーリー・ブラウンのクリスマス』の成功が明らかになると、CBSはさらなる『ピーナッツ』のテレビスペシャルを慌てて確保した。次に放送されたのは『チャーリー・ブラウンの野球チーム』だったが、最初のスペシャル番組から1年もたたないうちに3作目の『スヌーピーとかぼちゃ大王』が放送された。

漫画では、『ピーナッツ』のキャラクターはほぼ数種類の異なるアングルからしか描かれていないが、アニメーションではキャラクターが動いたり体の向きを変えたりするときに、シュルツが描いたことのないポーズの絵も描かなければならない。だがアニメーターのビル・メレンデスとそのチーム（『ピーナッツ』スペシャルでは“Graphic Blandishment”（直訳すれば「絵による甘言」）という異例の名のもとにクレジットされている）はすでに何年も前から『ピーナッツ』のアニメーション化の経験を積んでいた。最初がフォード自動車の一連のテレビCMで、つづいて、当時はまだ放送されていなかったドキュメンタリー番組内の短いアニメーションである。『かぼちゃ大王』では、スヌーピー扮する第一次世界大戦の撃墜王とレッド・バロンの戦いに初めて命を吹き込んだ。



①ああ、カボチャ大王、どうかぼくをガッカリさせないで！ ②わが敵たちの前でわたしを救ってください！ 敵たちからわたしを助け出してください！！ ③出てこい、マスケ!!! (1970年10月31日)



40年以上にわたって、舞台、映画、テレビ、テニスコート、ゴルフ場、アイスリンクと場所を選ばず、友情、忠誠、創造を通じて、わたしたちの父であるプロデューサーのリー・メンデルソン、アニメーターのビル・メレンデス、『ピーナッツ』作者のチャールズ・M・シュルツの3人による、特別にして相乗効果をもたらすパートナーシップのもとに、チャーリー・ブラウンとその仲間たちは、魔法にかけられたかのようにテレビ番組として命が吹き込まれました。1965年12月9日木曜日の夜、CBSテレビで放送されたエミー賞受賞作『チャーリー・ブラウンのクリスマス』に始まり、『スヌーピーとかぼちゃ大王』やさらなるエミー賞その他の栄誉ある賞を受賞した数々の名作とともに、アニメーションの象徴的な記念碑が築き上げられました。父が“スパーキー”とビルと一緒に、こんなにも長いあいだ多くの人々に愛されつづける作品を創りあげたことを、わたしたちは本当にうれしく思います。

—ジェイソン&グレン・メンデルソン（リー・メンデルソン・フィルム・プロダクションズ社）



78 | 1970年代の作業机

友人に頼んでナプキンにスパーキーの絵を描いてもらった女性は、やがて直接本人と会うようになった。1972年、ジーン・フォーサイス・クライドは、スケートのレッスンに通う子どもたちの送り迎えをしているうちに、「あったかい子犬カフェ」の予約席に座るスパーキーの姿を目にするようになった（ここは今でもシュルツの予約席である）。この年、スパーキーはジョイスとの結婚生活に終止符を打っていた。スパーキーとジーンはいつしか会話を交わすようになり、互いに惹かれあった。

1973年9月22日、ふたりは結婚し、ジーンはスパーキーの生涯の伴侶となった。ジーンは結婚祝いとして、この机をスパーキーに贈った。以後、ここがスパーキーの作画以外の作業の場にして、描き上げた原稿のインクを乾かす場となった。現在、シュルツ美術館内にはシュルツの仕事をそのまま再現した展示スペースがあり、この机もそこに置かれているので、誰でも目にする事ができる。



“

この再現されたスパーキーの仕事場を見ると、非常に複雑な人間の重要な側面がいくつもわかります。家族思いで世の中をよく知る彼の、家族、友人、仲間の写真があります。机の右側にある画材や漫画の本からは、漫画や芸術全般への愛情がうかがえます。その机は鋭い仕事人にふさわしく、適切な大きさで、端正で、実用的です。

最後に、背後にある地球儀はスパーキーの高潔な博愛心を象徴しています。その台座にある小さな真鍮のプレートには、スパーキーが支援してきた何千もの価値ある団体のひとつの名とともに、彼の信頼できる財政的、知的、そして心からのスポンサーシップへの感謝として、こう記されています。「スパーキーへ／あなたはかけがえのない存在です／漫画美術館」

——M・K・ホワイティ（漫画美術館創設者）

